

Dear地球民

第11号
1993年11月発行

編集発行ゆがわら国際交流協会
〒259-03 神奈川県足柄下郡湯河原町土肥1-7-1
湯河原町商工会内 ☎0465-63-0111

第8回

やっさ国際交流

「ようこそ湯河原へ！」7月28日、今年も21人の外国の青年たちが、湯河原駅でホストファミリーに迎えられました。ブラジルからの研修生、東京で日本語を学ぶ、韓国と台湾の学生、オーストラリア、ニュージーランドからの中高校生です。8月4日までの約一週間（オセアニアの学生は11日まで）町内の家庭にホームステイしながら、日本の文化・習慣を学び、湯河原の家族との相互理解を深めました。その間、ゲーム大会・バーベキューも催され、色々な国の人達と親しくなれました。そして、やっさパレード参加。あいにくの大雨となってしまいましたが、初めての、ゆかた、ハッピー姿で、みんな一生懸命踊りました。町の方たちの声援もうれしかったですね。ありがとうございました。

秋になり、帰国(帰京)した留学生から、家族への手紙も届き始めました。この夏つちかった友情が、末永く続きますように....



湯河原高校の生徒会との交流風景
茶道も習いました。
このときはばかりは真剣そのもの？

'93 SUMMER ホストファミリーと留学生

中村 節哉 (吉浜)
姜 淑熙 (韓国)
カロリーナ・サントス・デ・マセド(ブラジル)

林 美樹 (吉浜)
シモン・ニコル・ハーバート(オーストラリア)

浜野 英治 (吉浜)
マサミ・ウエダ・ジュニオール(ブラジル)

高橋 賢次 (土肥)
陳 佳琪 (台湾)

瀬野 直人 (吉浜)
申 惠景 (韓国)

柏木 光之 (鍛冶屋)
張 雅勤 (台湾)

力石 晃英 (土肥)
エンリック・モタ・デ・メスキタ(ブラジル)
エドワード・キヨシ・トノカ(ブラジル)

菅沼 謙一 (土肥)
陳 靜妍 (台湾)

杉山 茂久 (宮上)
クリスチーナ・カーク(ニュージーランド)

二見 高彰 (土肥)
シannon・ドノバン(ニュージーランド)

柏木 英一 (宮上)
范 旭君 (台湾)

二見 昌義 (門川)
ジュニー・ブライアント(オーストラリア)

高山 善明 (福浦)
李 ゴウン (韓国)

森 三喜雄 (吉浜)
エリカ・小山 (ブラジル)

菅沼 真紀子 (熱海市泉)
テボラ・みどり・梅林(ブラジル)

茂田 富士松 (城堀)
曾 芝煌 (台湾)

土屋 誠一 (城堀)
ブルック・セダン(オーストラリア)

内藤 知佳 (土肥)
アマダ・グライ(ニュージーランド)

鳥光 弘孝 (土肥)
クラウディア・麻里・勝又(ブラジル)

1986年に始まったホームステイプログラム《やさ国際交流》は、今年で8回目を迎えました。湯河原の多くの家庭が、ホストファミリーを引き受けて下さいました。留学生たちの国籍は何カ国になると思われますか？アジアを中心に15カ国、学生数は、何と200名近くになります。故国に帰った皆さんは、きっとこの経験を大勢の人達に話したことでしょ。それだけ湯河原を知る人が世界に増えたということですね。また逆に湯河原の家族が、留学生の家庭を訪れ、歓迎してもらったお話しも聞きました。手紙のやり取りは勿論ですが、このような関係がずっと続いたら嬉しいですね。

あんな、こんな、思い出いっぱい ホームステイ

……寄せられた感想文から……

私達は若い時に、いろいろな国で、いろいろな人々に随分お世話になりましたので、今度は日本に来ている若い人達にできることをしてあげたい、という気持ちで参加しました。うちの子供達にとっても異文化の人と接するいい機会だし、私達も楽しもうと思いました。終わってみて、家族全員ほぼ満足しているようです。

韓国は、隣の国なのに、よく知らないことばかりで、質問攻めの毎日でした。近いだけに同じようなものが多い反面、全く違うこともあって驚きでした。特に食事のマナーでは、お茶碗を手に持てはいけない、音をたてて吹いたり（熱いものを）すすったり（めん類）してはいけない、などの違いが分かり、子供達も興味深かったようです。子供達の感想は、「恵景さんに作っていただいた韓国のギョーザ（豆腐ともやし入り）、ビビンバがおいしかった。来年もまたホームステイの人を呼ぼう」でした。我が家は町はずれにもかかわらず、まだ車もなく、海へ行くにも花火見物にも歩きばかりでしたので、恵景さんは、留学生の皆さんの中で、一番たくさん湯河原の町を歩いた人だと思います。

（ホストファミリー、瀬野 由紀）

私は初めて来たとき、日本語があまりしゃべれないから、いつも色々なことを心配しました。でも湯河原の皆さんは親切だから、一週間の期間中わからないことがあった時、みんなから手伝ってくれました。本当によかったです。私がホームステイした家庭は花店だから、毎日の仕事が凄く多いです。けれども一緒に花をさしたり、おしゃべりもしました。そして仕事も面白いから、たくさん花の名前をきちんと覚えました。もし今度チャンスがあれば、台湾の家族を連れて、ここにもう一回遊びにきたいです。（曾 芝煌、台湾）



韓国の留学生 申さん、姜さん、李さん
やっさ祭りの今日は、ちょっとおめかし

まずは、このような立派な集まりに参加できるよう招待して下さった湯河原の皆様、心より感謝致します。私は、大学在学中「韓・日学生」という外国人学生達による集いに参加して、日本という国に対して深い関心を持つようになりました。でも、実際この湯河原に来るまでは、日本の本当の姿を知る機会は、ほとんどと言っていいほどありませんでした。私がこの一週間お世話になった高山さんの家庭は、私が今まで抱いていた日本の国の偏見をすべて無くすくらい立派な家庭だと思いました。またホームステイのために色々活動して下さった関係者の皆様には、大変な中で、私のように真正に日本を理解しようとする外国人学生の為に、より一層努力して下さいを祈ります。(李 ゴウン、韓国)

台湾に挨拶した雨雲は日本にも立ち寄って、今年は海に行くこともなく、何となく家の中で過ごす日が多くなってしまいました。わが家にホームステイする留学生は毎年、素直でよい子が来ます。もしかするとこれは私の普段からの行いに対して神様のプレゼントかも知れません。ひとつだけ困ったことは、魚の刺し身が食べられないという事ですが、来年遊びに来た時は、お寿司を食べに行く約束をしました。My pretty wife は、何かにつけて雅勤をつかまえては、中国語の勉強をしていました。何年やっても余り上達していないようですが、大事なものは何でも続けるということなので、私は黙ってさせています。昨年ホームステイしたグレイス(マレーシア)も途中から合流して、とてもにぎやかな数日でした。今年は娘が、バーベキュー、花火大会、やっさ踊りと面倒を見てくれたので大変助かりましたが、三人いた娘が元の一人になってしまうと思うと、少しだけ、ほんの少しだけ、チョッピリ淋しくなります。(ホストファミリー、柏木 光之)

エリカおねえちゃんがきてから、家の中が、たのしくなった。エリカおねえちゃんは、やさしくて、おもしろかった。「一週間ってのは、こんな早かったのかなー」と思った。(ホストファミリー、森 まりや)

～それぞれ国籍の違う(ブラジル、韓国)お嬢さんを受け入れるにあたって家族で話し合ったことは、*二人を平等に *お客扱いをしない、たとえ一週間という短い期間であっても、ありのままの善意の部分の私たち日本人の心と暮らしを理解してもらい、共に楽しい時間を作るということでした。二人を迎えるまでは、多少社会のお役にたつてやるといった気持ちがありましたが、今一週間を無事に共に過ごしたとき、ほんとうにほんとうに、この交流会に参加させていただいて良かったと感謝の気持ちで一杯です。明るく、礼儀正しく、忍耐強く相手を思いやる態度、良い好奇心、学習意欲、パーフェクトな人柄に教えられることしきりで、楽しいうれしい一週間でした。友人、知人、地域(町内会役員)の方々の協力も絶大でありましたし、また、その方々も国際交流について理解を深められ、楽しんで下さったように感じます。(ホストファミリー、中村 てる子)

思い起こしてみれば皆、個性的な子供達ばかりでした。今年で留学生を四年連続受け入れた我が家では、いつもそう思います。今年のマリさんもそうでした。以前の子供達と同様、毎年の我が家流スケジュールをすすめてもいやな顔ひとつせず、付き合ってくれました。でも本当にいつもと同じでいいのか... 家に帰ってくるとお菓子を作り私達にすすめ、洗い物をし、自分の出来ること最大限をフルに発揮し、それを一週間続けました。おいしいお菓子もそうですが、常に自分というものを持ち、自分が今どうしたらよいかを考えながら行動している彼女をみると、もっと早く彼女と理解し合える方法があったのではないかと自戒せずにはいられません。あのやっさ踊りの準備の身支度を手伝ううちに、彼女がキラキラ輝いて見えました。難しい日本語がわからなくとも一生懸命納得いくまで説明しながら書いていた感想文に、家族皆で夜遅くまで話し合ったこと、本当にいい思い出になりました。ひょうきんで礼儀正しく和歌山弁なまりのマリさん、一週間は本当に短かったですね。話の続きは、また電話や手紙でしましょうね。お母さん待ってますよ。(ホストファミリー、鳥光 妙子)

第8回やっさ国際交流スケジュール

- 7/28 対面式、歓迎会
- 29 幕山公園にてゲーム・バーベキュー大会、やっさ踊り練習
- 8/ 1 夜、海岸で花火見物
- 2 やっさパレード参加
- 4 終了式、お別れパーティー
- (ブラジル人研修生・在京学生は、これにて離湯)
- 8/ 5 湯河原高校生徒会と交流会
- 7 フンドシツ真鶴主催レクリエーション参加
- 9 東京ディズニーランド見学
- 10 お別れパーティー
- 11 オセアニアの学生、早朝離湯



ゲーム、バーベキュー、やっさ踊りの練習と、忙しい一日でした。あんまり暑いから、水遊びもしたよ。
幕山公園で

さまざまな国の素晴らしい人達と出会うことができ、100点満点だと思います。力石さん宅でのホームステイを通じて、日本の文化と触れ合い、またそこで日本人のやさしさを感じることができました。一週間だけではなく、もう少し長い期間湯河原に残り、もっと色々なことを学び見学したいと思いました。～（エンリッケ・メスキタ、ブラジル）

～ホストファミリーのことを、まるで自分の本当の家族のように感じました。私に色々なことを、教えたり見せたりしてくれました。やっさパレードは素晴らしく、やっさ踊りを心から楽しみました。ゆかた姿も決まっていたし。たくさんのフラッシュが、歓迎を感じさせてくれました。私は、日本の踊りをするオーストラリア人演技者でした。

（シモン・ハーバート、オーストラリア）

クリスティーナ・マリー・カークは16才の女の子。ニュージーランドの北島の真ん中、湖のあるタウポ市という所からやって来ました。彼女を受け入れるに当たっての心の準備がまだ出来ていない7月中旬頃、東京にあるニュージーランド観光局より、パンフレットとポスターが、クリスマス前に沢山届きました。クリスマスは、それを出逢った人達に、たどたどしい日本語で説明をしながら配布し、国際親善のお役を果たしているのです。

クリスマスはとても素敵な女の子でした。外観は少しシャイにも思えますが、いざとなったらやるべき事はきちんとやる勇気ある元気な女の子。我が家の次女と同年でしたから二人で英語と日本語を交互に話し、二人の語学力は五分五分に思えました。よい勉強となったようです。クリスマスのご両親は一人のレディーとして彼女を信頼して送り出したに違いありません。逆に我が子を送り出すとなると、まだ心配で無理だと思います。親として育て方の甘さを痛感いたしました。もう一度可愛いクリスマスに逢いたくて、多分私達親子はニュージーランドへ行くような気がしてまいりました。（ホストファミリー、杉山 由佑子）



各国の料理は、留学生とホストファミリーの力作ぞろい。お味やいかに？

お別れパーティーにて



“兵隊は歌が好きだった” 石井宏樹

さる第二次世界大戦から早くも50年を迎えた。このタイトルにこだわり続けてきた私の思い出を紹介したい。

ヨーロッパ戦線で追い詰められたドイツ軍は、ユーゴのベオグラードから毎晩のように自国の兵隊を励ますためにニュースを流し、その合間に“リリーマルレン”という架空の女性を慕う歌を流し続けた。ラジオから流れるメロディーはドイツ軍だけではなく、アメリカ兵の心をとらえ、ドイツ語ながらそのメロディーは兵隊の心に訴えるものがあり、いつしか大変人気のあるメロディーとなった。

ついにヨーロッパ戦線から敗退したドイツ軍を追い、ベルリンに突入し、ヨーロッパの戦いは終局を迎えた。

アメリカ兵は、誰かリリーマルレーンを知らないかとベルリンの街頭を探し歩いたというエピソードが残されている。彼等は戦争の最中にあっても歌と可愛い女性を探し求めたというロマンチックな行動は美しいと私には思えて仕方がない。

90才でこの世を去ったアメリカの大女優マレーネ・ディートリヒはもともとドイツ生まれの生粋のドイツ人だが、アメリカに亡命した。

大戦中は連合軍側のヨーロッパ戦線に慰問に出掛け、大変な人気を得たが、戦後の大阪で開かれた万国博覧会にVIPとして招待され、その時にリリーマルレーンを歌い多くの外人客にも好評だった。

一方日本の最後の防衛線だった沖縄は、多くの民間人を巻き込んで結局は悲惨な結末を迎えたことは歴史に新しい。

多くの日本兵が捕虜として収容所に入れられたが、激しい戦いの後だけに、いつ本国に帰れるのが、その当てもなく、毎日を絶望的に暮らしていた。

戦場整理する仕事をアメリカ軍に命令されても、言葉の問題もあり、意思の疎通がうまく図れず、お互いがイライラした日が続いたという。

そうしたある日、収容所の長が一日、兵隊による慰安会を催すことになった。

軍服という制服を着ているので、お互いの過去を知らず、意外にも立派なタレントがいて、大変楽しいプログラムが組まれていた。最後に一人の兵隊が英語の原語による歌を見事なメロディーで歌い始め、第二節に入ったところで、突如として後ろの列の多数のアメリカ兵から見事な大コーラスが始まったのである。しかも殆どのアメリカ兵が大粒の涙を流しながらの見事な唱和だったそうだ。

その題名は My Bonny lies over the ocean

太平洋戦線を命懸けで戦ってきた兵士が毎晩のようにラジオで聞いてきた、この歌がまさか日本の兵隊から聞くことになるとは予想もしなかっただけに、その感銘は想像



以上のもので、その与えたインパクトは大きかったものだろう。

その日本兵もおそらくラジオを通じて敵の流す歌を覚えたのだろう。

私はこのエピソードを聞いたとき、ボニーという女性を慕う、やるせない若い兵隊に生きとし生ける共通の命のようなものを感じた。

当然のことながら、この歌を通じて心のわだかまりがなくなり、翌日からの作業がスムーズにはかどり、やがて日本への帰還の日を迎えたのである。

私はこの話しを聞き、うらぶれた私の心の慰めになった深い思い出になった。

国際交流にしても、こうしたほんの些細なことで心を解け合うことができるものでないだろうか。

ホームステイの形で、ロシアのチェリノブイリ原子力発電所のいたましい犠牲になった子供達の面倒を一ヶ月もケアしてあげ、別れ際にお互いの情が移り、泣いて別れた話しを聞いたとき、思わずもらい泣きし、ほんとうによかったの一言につきたのである。

戦争についての反省の言葉を聞くことが多い。半面物言わぬ多くの兵隊は命令に従い戦ってきたが、特別の気負いもなく、ひたすら歌をうたい、自分を慰めてきた。そのような歌が今でも心に残っており、それが引き継がれていくのだろう。永遠に。

講演会のご案内

☆11月25日(木)午後7:30～ 於：湯河原町役場 新庁舎3階

タレント・キャスター 宮野 比呂美 さん(ボストン大学卒)に、「外国に恋して」と題して努力と熱意のアメリカ留学体験談をうかがいます。ディスカッションの場も設けますので、留学やアメリカにご興味のある方、参加してみたい方が良いでしょう。

【活動報告】

募金協力 シャプラニール・市民による海外協力の会へ ￥33,171

7/25ジャズフェスティバルの際、募金いただきました。バングラデシュにおける成人識字教育、給水ポンプ設置、児童教育などの活動資金になります。

第1回国際交流フォト展 9/21～26 於：町立図書館

やさしい国際交流の交歓風景や、海外旅行先でのショットなど、多くの作品が寄せられました。「地球民賞」に菅沼真紀子さんの「浴衣 おばあちゃんの出番!」(モデルは菅沼家にホームステイしたブラジルのみどりちゃん)が選ばれたほか、多数入賞。力作ぞろいでした。わざわざ東京から見に来てくれた留学生もいました。

外国語講座

☆英 語... 南 スージー先生(ケンブリッジ大学卒、シンガポールご出身)

☆中 国 語... 露木 裕子先生(上海、復旦大学留学)

☆ポルトガル語... 本多 公子先生(リスボン大学留学)

前期6月、後期9月より延べ88名の方が受講。